

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

# ミズヒマワリ

キク科 *Gymnocoronis spilanthoides*

原産地：熱帯アメリカ

外来生物法：特定外来生物

生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種

## 特徴

抽水性の多年生草本。水槽用の水草としてかつて一般に流通していた。千切れた茎の断片から成長し、マット状の塊を作る。

葉：ヒマワリの葉によく似ることから、この名前に。同じ箇所から2枚の葉が対になって生える(対生)。葉の長さは20cm程度になる。

花：100～150個の白く小さな小花を集まった直径1cmほどの頭状花をつける。

繁殖：千切れた茎の断片から成長する栄養繁殖が旺盛。図鑑によってはほとんど結実しないなどの表現があるが、国内の複数の侵入個体群で結実が確認されており、分布拡大における種子繁殖の可能性も指摘されている<sup>1</sup>。



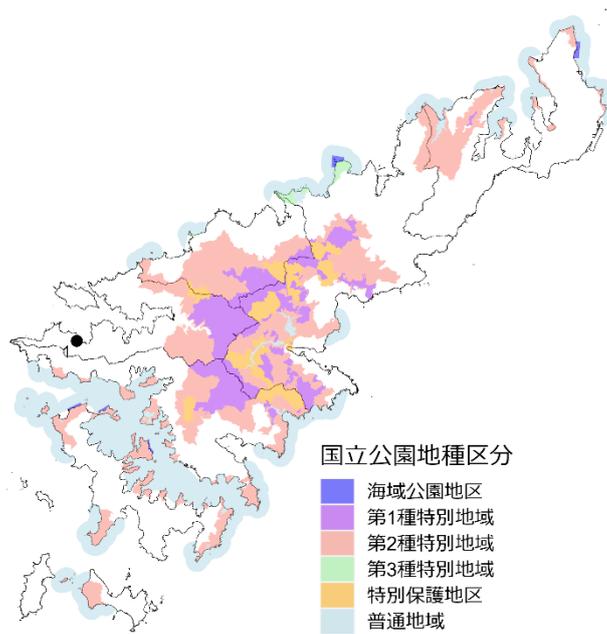
<sup>1</sup> 大道暢之、角野康郎(2005)『外来水生植物ミズヒマワリの種子形成とその発芽特性』,保全生態学研究 10, p113-118.



**影響** : 水路や河川の水流を妨げるほか、在来植物、魚類の生息を脅かすと考えられる。また他の植物の生長を妨げる物質を分泌する（アレロパシー活性）。花にはアサギマダラなどの蝶類が多く集まるため、在来植物の受粉にも影響を与える恐れがある。

**侵入状況** : 令和6年1月現在、奄美大島内では1カ所でのみ生育が確認されている。

ミズヒマワリ生育地点(奄美大島)  
2024年1月17日現在



島名	大地点	地点名
奄美大島	1	阿室

対策状況 : 生育が確認されている地点では、根絶にむけた防除作業が実施されている。

防除のコツ : 暖かい時期は長い期間開花が見られることから、駆除の時期を気にする必要はあまりない。  
駆除作業時に種子があれば、地面に落ちないように優先的に取り除く。千切れた茎の断片からも再生育するため、根から丁寧に掘り出すことが求められる。1、2ヶ月間隔で定期的な抜き取り作業を行うのが望ましい。